

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	01732 00569		
法人名	有限会社 和		
事業所名	グループホーム 和1・2		
所在地	士別市東1条2丁目440番地		
自己評価作成日	H27年 10 月 10 日	評価結果市町村受理日	平成27年12月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173200569-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173200569-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 11 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人の人生を尊重し支援します。</li> <li>・その人らしく生活出来る様支援します</li> <li>・健康面で安心出来る様支援します。</li> <li>・ご家族・地域の方との関わりを大事に支援します。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム和は、士別市内の住宅街に立地し、開設から今年で11年を迎えています。地域との信頼関係を構築し、散歩時に挨拶を交わしたり、避難訓練の時には避難の手助け、見守り等で参加が得られています。利用者と職員は、地域で開催される土別神社祭や天塩川祭り等のイベントに積極的に出かけ、地域の一員として交流を続けています。ホーム内では清潔に心がけ、除染や空気の入替えを常時行ない、利用者が安心して暮らせるように努めています。利用者の得意としていた裁縫で、自分の衣類の補修や他の利用者の繕い等も行なう姿も見られます。職員は理念に掲げているそれぞれの項目に想いを重ね、利用者がこのホームで自分らしさを自由に表現できるように支援しています。家庭的な雰囲気の中で、今まで出来ていた事は続けられるように、出来なかった事は興味を持てるように取り組んでいます。職員は余裕が出来れば様々な場面で取り組める支援が広がる事を十分に理解しており、お互いが刺激し合って質を高め、サービスの向上に努めているホームとなっています。</p>
---

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が意識出来る様理念を掲示し、入居者1人ひとりがその人らしく生きられる様な支援に努めている。毎日の提唱には至っていない今後の課題とする。	理念は各ユニットに大きく掲げられ、日々確認しています。管理者は理念の意味を説明し、職員はその意味を信念として捉え、利用者の支援に反映させています。管理者は理念が実践されている事を確認し、職員の働く意欲に繋がるよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所代表が地域自治会の役員を努め、自治会開催の行事に参加させて頂き交流を深めている。又ホームでの避難訓練に近隣住人に声かけし参加頂ける様協力をお願いしている。	地域で開催の祭りやイベント、夕方に行われる天塩川祭りにも積極的に出かけ、交流する機会を大切にしています。日常の散歩では顔馴染みになり、挨拶を交わしたり花壇の見学もしています。保育園児が来訪してくれるお遊戯披露は何よりの楽しみとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会での必要性に応じ、対応出来る様にしていきたい。今現在は行ってない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各ユニット毎の活動内容・入居者動向を報告している。その中で意見を頂きサービス向上に活かされている。又結果報告を御家族に送付し状況をお知らせしている。	2ヵ月毎の運営推進会議は地域住民や家族、行政職員の参加で開催が続いています。同法人の別のホームと合同で行っており、活動状況の報告や利用者の様子が伝えられ、その後意見交換となっています。提案は運営に反映され、今後の参加者の増に向け検討しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者が運営推進会議の出席して下さり、協力関係を築く様に取り組んでいる。	相談や問い合わせ、手続きなどで直接市の窓口に出かけ信頼関係を築いています。市職員は運営推進委員として参加がり、意見も頂いています。市主催の地域ケア会議が開催されていますが、人手不足もあり参加できていない現状となっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は全ての玄関は開錠しており、自由に外に出られるようにしている。出入口にはセンサーがあり、インターホンが鳴るようになっており、職員が常に意識して安全の徹底を心掛けている。	身体拘束は行わないと規定に定め、緊急やむを得ない場合の対応も記載しています。転倒予防対策として柵や布団に鈴等をつけている利用者もいますが、家族と十分に検討し、介護計画に記載し、定期的に話し合い、外せるように検討しています。また、職員の研修や身体拘束の具体的な行為の周知を図り身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 oversされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待をテーマにした講演に参加し、発表する時間を設け、職員全員に学ぶ機会を持ち周知徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在成年後見制度を活用する入居者さんが居ないため行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な時間を設け、説明を行い不安や疑問点を伺い、理解納得して頂き契約の締結を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの廊下に意見函を設け、何か意見や苦情があれば投函出来る様にしてある。又契約時においても苦情の窓口をお知らせしている。	年4回「なごみ新聞」の発行や、毎月担当者が「おたより」を送り、ホーム内の生活の様子を詳しく家族に伝えています。面会の方も多く、来訪の際は話がしやすい雰囲気を作り、要望や意見を聞いています。内容は記録に残し職員が共有出来るようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り後、時間を設け意見や提案を言ってもらい運営に反映している。職員のモチベーションを高めるために、一人ひとり話を聞く機会を設けている。	担当制により申し送りや会議では、日常の支援の中で気が付いた事を素直に話し合っています。利用者の思いをくみ取り計画や支援に繋がるように努めています。管理者は職員の日頃の相談や悩みを受け止め、アドバイザーとしての役割も担っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取ろうとしている職員に対して、勤務体制を優遇し各自の向上心を持って働けるようにしている。又取得後は賃金に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地方で研修は人員不足にて受ける機会が無く、地域での研修には希望に沿い機会作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業者との交流は実施されなかった。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集や入居前アセスメントにて職員間で共有し、ケアプランに反映して関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅に訪問したり、ホームに足を運んで頂いたりして、初期段階で関りを持ち御家族の不安や困っている事を伺い関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の希望を伺い、必要としている支援を見極めサービスに努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人太りの能力を把握し、食材の野菜切り・盛り付け・掃除・雑巾や布巾縫い等暮らしを共にする関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回お手紙で現状をお知らせしたり、面会時や変わりのある時は電話連絡をしている。又行事のある時にはお知らせして参加を募って居る。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所に住まれた方が来設して下さったり、次に繋がるように声かけをしている。又馴染みの美・理容室に出かけるなど支援している。時には家族にも協力を要請したりしている。	家族の面会や知人の訪問も多くあり、職員と一緒に歓迎しています。馴染みの理美容室の利用や、かかりつけ医の受診も続けています。得意な裁縫でほつれを直したり、他の利用者の繕いや布巾等も作ってくれる利用者もいます。手紙を書いたり、年賀状を出す大切にしてきた習慣の継続も支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝の体操・レクや3時のおやつ時にリビングで顔を合わせて楽しめる機会を持ち、孤独ではない他者との関わりのある時間を作っている。互いに身近に生活する者と認め合いながらも好きなようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後亡くなり退去となるケースがほとんどで、家族にお会いした時には挨拶や近況など会話する様にしている。			
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が話し易い様に自室で思いを伺ったり、帰宅願望が強い入居者さんに対しては事前にご家族に報告し外出の協力をお願いし、本人本位に検討している。	独自のフェイスシートを活用し、担当者がアセスメントを定期的に行っています。面会時に介護計画作成者や職員が家族から聞き取った内容を記録に残しています。家族には思いや要望を介護計画書に直接書いてもらったり、生活の中で気付いた職員の意見を反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族にアセスメントシートを書いて頂き、分からない事は面会時にその都度伺い把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、心身状態を記録に残し職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月ごとにモニタリング・ケアプラン見直しの際、その都度ケースカンファレンスを行い、気付いた点、意見やアイデアを出し合い介護計画を作成している。	職員は計画に沿った利用者の行動や言動を記録に残し、モニタリング時期に計画作成者が読み返し、直接聞く事で次期プランに反映させています。担当者は日常の様子を毎月「おたより」として配布し、信頼関係を構築する事で家族が話し易い雰囲気作りにも努め、家族の要望を反映出来るように取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいて記録を行い、異常時や特記事項が必要とされる時は別用紙を用いて記録し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々臨機応変に対応し柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や町内の方の協力を得ながら、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望に合わせて受診介助を行い、ご家族へは面会時・電話・お手紙等で報告させて頂いている。	受診については、基本的にホームの職員が同行しています。家族が同行する時は、生活の様子を記載したメモを渡し受診時に役立ててもらっています。受診後は家族から状況を伺い、記録に残す事で職員間で共有を図っています。医療機関とは良好な信頼関係を築いています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝のバイタルチェック後職員間で情報を共有し、問題あると判断した場合受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には添書を添えて情報提供する。その後適宜面会し状態把握に努め、病院との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応指針の同意書や事前指定書を説明を行っており、医療機関と相談しながら本人やご家族の意向を尊重出来る様対応している。	重度化した場合の対応について、利用開始時に文書で説明し同意を得ています。市内には24時間365日医療体制の医療機関がなく、ターミナルケアの対応は出来ませんが、重度化した場合のその後の対応について医療機関と十分に話し合い、利用者本人の意向を尊重した対応となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、消防協力の下救急救命講習を全職員と参加下さる入居者で対応を学んでいる。マニュアルを作成し周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防と設備会社の下、年3回避難訓練を行いマニュアルを作成し周知している。ご家族や近隣の方にも書面にてご案内し協力を頂いている。	消防・設備会社の協力の下と自主訓練を含め年3回避難訓練を行なっています。主に夜間を想定して行ない、地域の方の協力も得ています。地域の方には役割として、避難された利用者の見守りに協力して頂き、避難時の様子を確認して頂いています。備蓄品についても整備しています。	災害対策については万全と言う事はなく、今後も地域として考えられる対策や対応について検討を続け、地域の方だけでなく家族の方にも呼びかけ一緒に考え、避難時のホーム内の様子や利用者の避難状況を確認してもらえるように期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんの一人ひとりの個別の状況により、声かけの方法や言葉遣いを配慮している。	利用者のプライバシーや、人格の尊重・誇りを損ねないサービスについて話し合い、実践しています。個人情報や個人ファイルの管理についても適切に行っています。日常の関わりで気になる動作や言葉についても、職員間で指摘し合える関係を築いています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんと話し合いながら自己決定が出来る様声かけし、個々の状況に合わせた対応にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ホームとしての1日の動きはあるものの、入居者さん優先で一人ひとりの希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝のお化粧品や外出時の身だしなみとしてのお化粧品等、その人らしいおしゃれが続けて行ける様支援している。馴染みの理美容院の利用も希望に合わせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食事量・食べ易さを考え刻んだり、お粥を提供したり食器ワンプレートに変えたり工夫している。又職員と一緒に片付けをしている。	イベントや季節に合わせたメニューを専門の職員が調理し、朝夕の食事は職員が作っています。利用者と一緒に食事の用意や食後の片付けを行い、一緒に食事の時間を楽しんでいます。メニュー表は事前に家族に配布する事で、家族も一緒に考えられるようになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況を把握や考慮した上で提供し、食事量・水分量を記録に残し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その人の力に合わせて、声かけや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ケアプランにのっとり、一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導行いトイレでの排泄の自立の向け支援を行っている。	ホームではトイレ排泄を基本に、利用者の排泄パターンを把握し、声掛け誘導しています。自室にトイレがある事から夜間の排泄もトイレで行なっています。信頼関係を築くことにより、利用前の歩行困難状態であった利用者が自分から訴え排泄の自立に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況を把握し記録に残し、便秘がちな人には水分やヨーグルトを摂ってもらい、個々に応じた予防に努めている。排便が無い場合の対応もケアプランにて職員間で共有し便秘薬を服用頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	勤務体制により入浴日が決まっている為、一人ひとりの希望には添えないが、その日の体調やタイミングに合った時間帯に配慮している。	週に3回全員が入浴出来るように支援しています。1階は、広い浴室と浴槽があり、仲の良い利用者と一緒に楽しむこともあります。入浴剤を使用したり、入浴中は鼻歌を歌ったりして、楽しんでいます。又、家族と一緒に温泉旅行を楽しんだ事もあり、家族関係も大切にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣が決まっていて、自室でゆっくり安眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員のWチェックで内服管理を行い、一人一人の力に応じた服薬を介助している。内服の変動があった場合、職員間で共有し状態観察行い徹底した支援に努めている。又名前・日付の確認、飲み込む迄見守りを行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの家事役割を見出し、嗜好品を購入やカラオケ・塗り絵等希望や好みを取り入れながら気分転換出来る様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力の下実家に帰ったり、買物等出来る様連絡を取り支援したり、市内のイベントなど希望や声かけにて出来る限り支援している。」	夏季は日常的に近所に散歩に出かけ、挨拶を交わしたり、喫茶店、買物に出かけるなど、個別の要望に応じています。外出行事では、土別神社祭りや花見、夕方から参加の天塩川祭りにも出かけています。職員は余裕が来ると、さらなる支援に広がると検討が続けられています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に合わせて、ご家族の了解の下、手持ち金を持って頂き、自ら使用出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかける事は無くなっているが、必要と思われた時は、ご家族に電話を取次ぎし支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには花を飾り季節感を取り入れ、季節毎の歌詞や絵など飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。	リビングとダイニングの場所が別々にあり、生活のメリハリがつけられています。食事の手伝いや食後の片付けを利用者は一緒に行い、職員と共に生活している様子が窺えます。常にホールの空気清浄が行なわれています。ホーム行事の写真が多い掲示物「なごみ新聞」が、訪問者や利用者の目を楽しませてくれます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食堂が共用空間になっているが、一人ひとりの場所が自然と決まり、気の合った入居者同士が隣り合わせになり過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものを持ってきて頂くようにし、ご家族やご友人の写真を飾り、本人が居心地良く過ごされている。	居室には洗面台やトイレが設置され、自立支援の場面作りに役立っています。使い慣れた馴染みの家具や寝具が持ち込まれ、家族の写真や作品を飾り安心して暮らせるように工夫しています。リネンの交換時には、空気清浄器が活躍しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	廊下は木製の手摺があり、居室扉の壁にはご本人の写真や造花を飾って居室が分かるようにして、安全や自立した生活を送れるようにしている。		